

2019年12月21日（土）ESD全国フォーラム
分科会5：AI等の技術革新と教育・人材育成について考える

サイエンスブリッジコミュニケーターが 挑む地球規模課題の解決

株式会社リバネス
創業開発事業部 / リバネスシンガポール 取締役CAO
秋永名美

自己紹介：秋永名美

Director, Leave a Nest Singapore Pte. Ltd.
Master's degree in Sustainability Science, The University of Tokyo



Bridge communicator in between science - local issues



MASTER THESIS

“Ethnographic study on revitalization of northern part of Japan affected by 3.11 Tsunami and earthquake”

ACHIEVEMENTS:

- Joined Intensive Program in Sustainability Science, Asian Program of Incubating Environmental Leaders (2011-2012)
- The UNESCO World Conference on ESD (2014)
- ASEAN Young Leaders Summit (2015)
- Japan Committee of UNESCO (2015)



UNESCO

November 6th ~ 13th, 2014

World Conference on ESD

多様性の雲に飛び込んだ大学院時代

- 世界中から集まった、「課題解決型」の研究者。自分は興味本位で入学。
 - 研究課題は自ら見つける＝世界には課題が溢れている（農業、環境、エネルギー、科学技術と社会の融合、イノベーション、経済、情報、震災...）
 - 専門、国籍、文化、世代も違う研究者と答えのない課題に対して議論をし続ける日々。
 - 互いの知を持ち寄り共通のビジョンを描く難しさ/大切さ
- これからの世界を引っ張るのに必要な人材
→ では自分はどのようにリーダーシップをとる？



どうしたらこの多様性の価値を最大化できるだろうか？

修士課程 地域での研究

概要

前提として「復興とは、人が戻り、かつ地域のもともとの課題を解決すること」と定義した。
岩手県釜石市鶉住居地区をケーススタディに、地域の課題を集積し、解決に必要なことを洗い出した。

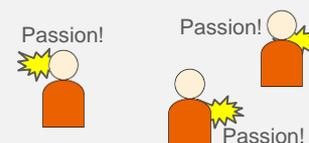
何を行ったか

- a. 18人の地域住民に対するエスノグラフィ調査を実施（2012.3～2013.1）
- b. 6つの観点でインタビューを実施
 1. 再建のきっかけ
 2. リスクに対する認識
 3. 街への愛着
 4. 「震災」に対する認識
 5. 地域課題の認識
 6. 復興に対する意欲
- c. 3つのグループに分類

何を発見したか

3つの大きな課題を発見

①キーリーダー間の協力不足



②一般住民の課題や復興計画に対する認知度の低さ



③商人のクリティカルな意見を公にすることへのためらい



⇒ 街を動かすチームが存在していなかった

論文以外の仕組みでこの地域課題を解決するためには？

地球規模課題の解決を目指す「研究者」集団 株式会社リバネス

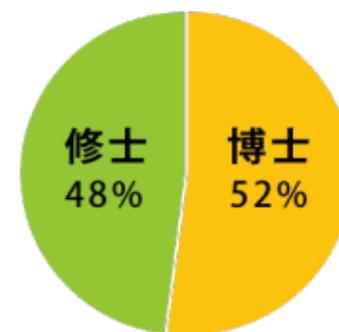
理念「科学技術の発展と地球貢献を実現する」

専門性

農学・生命科学・生物学・機械工学・

電子工学・情報工学・薬学・医学・心理学など

スタッフ約70名の最終学位



構成比 (2014年3月現在)

国内5拠点

海外子会社

東京
熊本
鶴岡
大阪
沖縄



異分野に橋渡しをするのが仕事



▲ ASEAN YOUNG LEADERS SUMMITに日本代表として参加



▲ ユネスコ世界会議でのディスカッションの様子

科学を伝える



研究者をつなげる



研究から仕事をつくる



リバネス主体の4つのプロジェクト



教育応援
プロジェクト

中高生の・先生の研究活動を
大学・企業で応援する



人材応援
プロジェクト

若手人材の研究キャリアを
大学・企業で支援する



研究応援
プロジェクト

研究者の研究・開発技術移転を
企業と加速する



創業応援
プロジェクト

大企業の新規事業を
ベンチャー・大学と創出する



なぜ、

ブリッジコミュニケーター

が必要なのか？

激動する世界情勢



バブル崩壊
リーマンショック

経済・金融



阪神淡路大震災
東日本大震災

地球環境・災害



超高齢化社会
人生100年時代

生命科学・医療

社会課題も人の相互作用も複雑化、多様化する現代

指数関数的に進化する科学技術



次世代車椅子の開発



エビのワクチン開発



腸内細菌解析・便移植

ものづくり

農業

バイオ

世界を変える新たな技術は日々うみだされる
その先にどんな世界が訪れるか想像できるか？

リサーチベースドエデュケーション

Incubating young leaders who solve issues and create future jobs by themselves



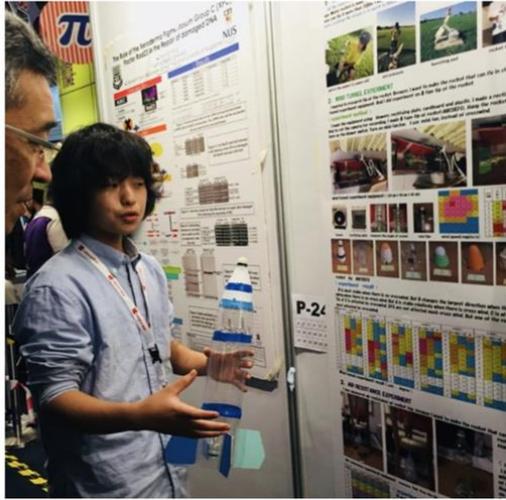
中高生のための学会 サイエンスキャッスルを海外に展開



シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア
・・・アジア9カ国から中高生が集まる国際学会

これからの世界を担うグローバルリーダーが集まる場所

学会中の様子



現地大学でのワークショップ

MyCRO 3D printing Workshop



Diving Deep Into Microbial Microcosm
observe microbial life in cultured
milk drink and pond water



Basic Steps In Microbial Identification
'Spot Microbe' workshop



Board Game



マレーシアの研究の魅力：地域資源の活用

最優秀賞 Grand Winner

Local Malaysian Herbs, Lemuni Hitam: A Good Antiseptic Source
(Sekolah Berasrama Penuh Integrasi Gombak)
(マレーシア)

会場投票賞

MANGOILSTEEN
(Sekolah Berasrama Penuh Integrasi Gombak)
(マレーシア)

地域ハーブで防腐剤



マンゴスチン活用



なぜ、

ブリッジコミュニケーター

が必要なのか？

その意味を考えたことはありますか？

Sustainable Development

持続可能な開発

その意味を考えたことはありますか？

Sustainability

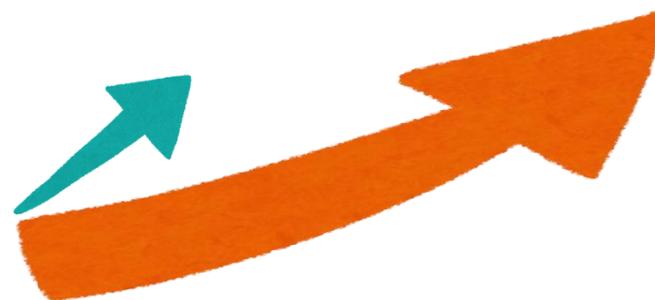
持続可能性

「持続可能な発展」に重要な2つの考え方



変化への適応、障害・衰退からの
復元力も重要

非効率＝多様性があるほうが
変化に柔軟に適應できる



short-term < long-term

目先の利益よりも
長期的なビジョンが重要

何をどれくらいsustainしたいのか？

▼Basic needs as human to live as human-being



▼Resources to utilize and preserve as human living on earth



▼Core approaches and issues to be solved related to whole SDGs



▼Basic goals in MDGs context



▼Advanced goals in SDGs context



《From the era to meet needs for human beings》

《Towards the era when all the global citizens to grow sustainably》

**分野・組織・国を超えた異分野連携の場を作り、
地球規模課題の解決のために知識を融合して
新たな知を生み出す科学を推し進める**

Sustainability Science

サステイナビリティ学

知の構造化に挑戦する日本発の「超学」
そのための教育がESDではないか